



幼児のボール遊びに関する研究 ⑦

—— バッティングを基礎としたボール遊び

およびキッキングを基礎としたボール遊び ——

徳島大学学芸学部体育研究室 岡 本 卓 夫

前回ではスローイングとキャッチング（投捕すること）を基礎とした遊びについて報告したが、今回は、バッティング（打つこと）とキッキング（けること）を基礎とした遊びについて報告する。

1 バッティングを基礎としたボール遊び

バッティングの中には、(A)手で打つこと、(B)バット、ラケットなどの媒介物によって打つこと、の二つの場合が考えられるが、実際問題としてボールにうまくタイミングを合せて打つということは、困難な、そして熟練を要するもので、幼児たちの遊びの中にも余り多くは見かけない。

ときどき上級生や、おとなたちのそれを見て模倣しているけれど、それは高度なのか長続きはしていないようである。しかしやってみたという欲求を持っていることは確かである。ここでは、その欲求を少しでも満たしてやるために、容易な打球遊びについて述

べようと思っているが、その前にこの打球遊びでのかれらの経験内容にはどんなものがあるかを、述べてみると、

(一)空間のどの辺でボールを打ったらよいかという、すなわちタイミングを知るようになる。

(二)平手を使用した時と、ラケットあるいは、バットを使用した時の感覚の相違を知るようになる。

(三)バッティングにおけるからだの向け方、足の開き方、腕の振り方などを知るようになる。

(四)ボールを打つための種々の用具があり、それらのそれぞれに適したボールもあるということを知るようになる。

以上がこの遊びでの主なる経験内容になるであろう。それでは主なる遊びについて説明することにする。

一、打球遊び

○人数 二人

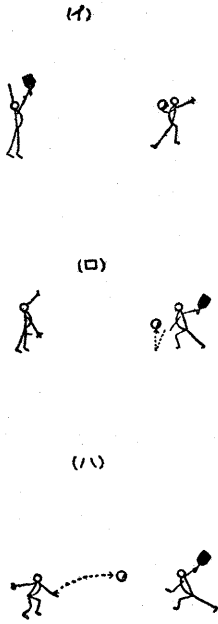
○準備 幼児ボール(大、小)またはテニスボール、ピンポンボール、ラケット、バット。

○遊びの目標

- (イ)左手にボールを持ち、右手(平手)あるいはラケット(小)、バット(小)で、床あるいは地上に落ちる前に打って遊ぶ。
- (ロ)同様式でボールを一度はまかせて打って遊ぶ。
- (ハ)いずれか一方のプレイヤーがボールを投げ他のプレイヤーが平手あるいはバット、ラケットでそのボールを打って遊ぶ。

○留意点

1. 二人の間隔は五〜六米程度にする。
2. からの向け方や、腕の振り方を指導し、まっすぐに飛ぶようにさせてやる。
3. (イ)の場合は交代させて遊ぶようにする。
4. 一人で遊ばす時は壁を利用させる。



二、バスケット入れ

○人数 一グループ五人〜六人

○準備 一グループに幼児ボール一個。大バスケット一つ

○遊びの目標

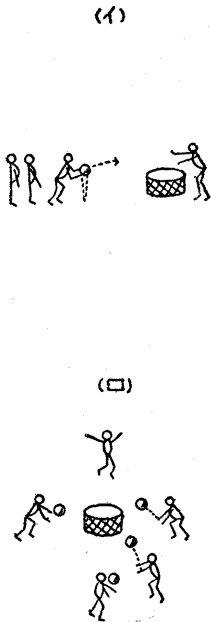
各グループはバスケットから約一・五〜二米のところに縦に一列に並び、先頭のものから順次ボールを打ってバスケットの中に入る遊び。

○ルール

1. ガードになつたものは、ボールを復旧させる役目をする。
2. 両手平手で、一度はまさせてから打つ。
3. 成功したプレイヤーは、列外に位置する。
4. 多くはといった組が勝ちとなる。

○留意点

1. 小さなボールとか、用具を使用して打たせることは困難である。



2. バスケットにはいったプレイヤーの数をみんなに数えさせること。

と。

3. バスケットを中心にして周囲から自由に打たせて遊ばすこと
よ。

三、ハンドベースボール

○人数 四人〜五人を一グループ

○準備 一辺八〜十米の正三角形のダイヤモンドのホームベースを

中心として半径四〜五米の制限線。幼児ボール(小) また
は、テニスボール一個。ベース三個。

○遊びの目標

両グループは攻防に分れ、攻撃側のプレイヤーは、ボールが落下
する前に、平手で打ちベースを回って帰る。その間に、守備側の
プレイヤーはボールを急いで捕え、ランナーにぶっつける遊び。

○ルール

1. バッターはダイヤモンドの両外側へ打ってはいけない。ただし
外野へはいくら打ってもよい。もし出たらやり直しする。

2. ランナーはベースに止まることなく進むことができる。

3. ベース上ではアウトにならない。

4. 防ぎよ側はバッターが打つまでは、制限円内に入ることでは
ない。

5. アウトにするには、ランナーにボールをつけるか、投げ当て
ばならない。

6. アウトになったら場外に出る。

7. 全員がアウトになるか、あるいは一定時間が来たら交代する。

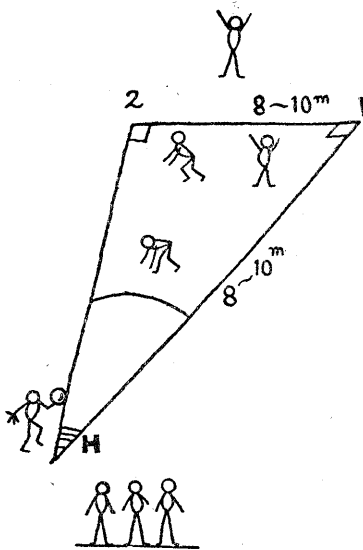
○留意点

1. 勝敗にこだわらず、遊びをした方がよい。

2. 上手になって来ると、バットあるいはラケットを使用させて
みる。

3. 守備の時にボールの取りあいないように、早く誰でもが取
って投げあてるのが良いということを指導する。

4. ベースは何でもよい。



2. キッキングを基礎としたボール遊び

ボールをキックするということも、バッティングと同様に、そのタイミングにおいて、相当困難な事態を示す。したがって、これらの遊びにも余り見られない。しかし、よく観察していると、たとえ、転んで来たボールなどには、矢張り手よりもぎきに、足で処理しようとする傾向があることを見出す。これは主として、男子に多いが、このようにけるという衝動のあることは、事実である。この事実を生かして、幼児たちにできる遊びを考案してみた。それではこの遊びをすることによって幼児たちが何を経験するだろうか。

(一)キックする時の足のステップやスイングの仕方、及びからだ全体のバランスをどのようにすればよいかを知るようになる。

(二)動いているボールをける時のタイミングを知るようになる。

(三)どんなボールがけりやすいかを知るようになる。

(四)キッキングにおけるコントロールを知るようになる。

以上のような事柄がこの遊びにおける主な経験内容になるであろう。

次にこの遊びの主なものについて報告する。

一、的けり遊び

○人数 一グループ五人〜六人

○準備 一グループに幼児ボール(大)一つ、的(腰掛、三輪車、自動車等)一つ。

○遊びの目標

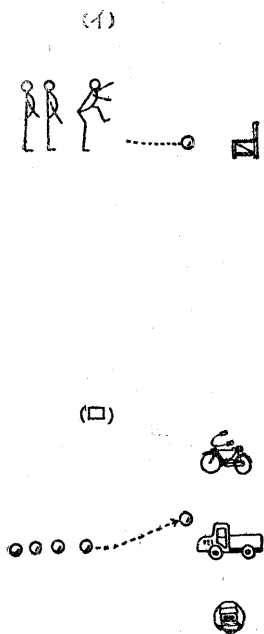
プレイヤーは、的から約三米の位置に縦に一列に並び、先頭のものから順次にけっていく遊び。

○ルール

1. ボールは置いてける(ブレースキック)
2. 的にあたった人は列外に位置する。
3. 一人一回しかけれない。
4. ガードになった人は、ボールを復旧さす役目をする。

○留意点

1. 的はどんなものでもよい。
2. いずれの足でけらせてもよい。
3. 的を二〜三個置いて、どれにあたってもよいようにする。



二、円形キックボール

○人数 一グループに八人～十人

○準備 一グループに幼児ボール（大）一つ。

○遊びの目標

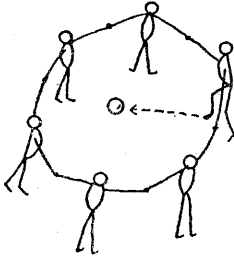
プレイヤーは手をつないで円をつくり、その中で互いにボールを
けて遊ぶ。

○ルール

1. 手を離してはいけない。
2. ボールをにがしてはいけない。

○留意点

1. ボールが外に出たら早く復旧させること。



三、ラン アンド キック

○人数 一グループ五人～六人

○準備 一グループに幼児ボール（大）一つ。

十米～十五米の距離で二本の平行線、その中央に直径一米
のサークル一つ。

○遊びの目標

グループはいずれか一方の線の内側に縦に一列に並び先頭のもの
から、スタートし、中央のサークル中まで走ったら、その中か
ら、リターンキックをし、向う側の線まで走る遊び。

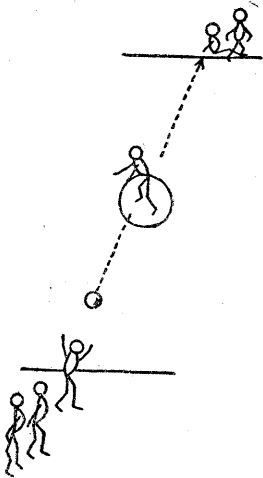
○ルール

1. サークル内で行く。

2. 早く終わった組が勝ちとなる。

○留意点

1. グループ間の距離を十分に広くとること。
2. 向う側の線まで走って、リターンキックさせてもよい。この時
サークル不要。



四、キック鬼

○人数 一グループ六人〜八人

○準備 幼児ボール(大)一つ。的一つ。直径約三米のサークル。

10×10の遊び場。

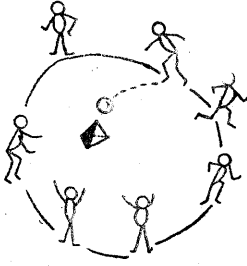
○遊びの目標

サークルの中心に的(何でもよい)を置き、各プレイヤーはサークル外に円周を作って位置し、皆んなでボールをけりあう。この時、真中の的にボールが当たると、当たった人が鬼となり、他のプレイヤーを追っかける遊び。

○ルール

1. プレイヤーは場外に出てはいけない。
2. つかまったらプレイヤーが次のゲームの最初のキッカーになる。
3. サークルの外側でけること。

○留意点



1. つかまえなくても触れるだけでよい。

2. 触れたら、早く元の位置にかえり次のゲームを始める。

3. 大きいサークルの代りに各人の位置に小サークルを書いて置いてもよい。

以上で、バッティング及キッキングを基礎としたボール遊びの主な報告を終るが、次回には、ローリング(転がすこと)を基礎としたボール遊びについて報告する。(次回完結)